

1. 全体概況

2019年冬季スケジュール国際線提供座席数は、約2,741万席と昨年より約149万席増加（昨年比：105.8%）。航空会社別では、上位から全日本空輸 約307万席（構成比：11.2%）、日本航空 約228万席（構成比：8.3%）、中国東方航空 約122万席（構成比：4.5%）の順となった。

●海外就航地別ではTC1が約284万席（昨年比：102.1%）、TC2は約190万席（昨年比：105.1%）、TC3は約2,267万席（昨年比：106.3%）とそれぞれ増加した。構成比ではTC1は10.4%、TC2は6.9%、TC3は82.7%で前年に比べ大きな変化はなかった。

●日本国内就航地別では、成田、羽田、関西の国際線主要3空港では約132万席（昨年比：106.8%）の増加に加え、上記3空港を除いた日本国内29空港総計で約17万席（昨年比：102.7%）増加した。

●FSC（フルサービスキャリア）とLCC（ローコストキャリア）別では、FSC総計約152万席増（昨年比：108.0%）に対し、LCCは2.5万席減少（昨年比：99.6%）した。これに伴い、LCC構成比率は昨年から1.5ポイント減少し25.2%となった。

備考：航空輸送力を表す単位には一般的に座キロが用いられるが、本レポートは訪日旅客数の増加に伴う輸送力分析の基礎データとして活用することを意図して座席数を採用している。尚、提供座席数はタイムテーブルを主な情報源として算出した計画値のため、実際の座席数と異なる場合がある。

2. 各項目詳細

(1) 海外就航地別

TC1 : 284.3万席 / 対前年比102.1% / 構成比率10.4%
 TC2 : 189.6万席 / 対前年比105.1% / 構成比率 6.9%
 TC3 : 2,266.6万席 / 対前年比106.3% / 構成比率82.7%

TC1
詳細

・増加（7空港）：+8.9万席

◆増加数上位3空港

1.シアトル（+3.4万席） 2.ロスアンゼルス（+3.2万席） 3.サンフランシスコ（+1.0万席）

・減少（3空港）：▲3.1万席

◆減少数上位3空港

1. ホノルル（▲1.3万席） 2.ポートランド（▲1.0万席） 3.シカゴ（▲0.8万席）

TC2
詳細

・増加（10空港）：+16.3万席

◆増加数上位3空港

1.ミュンヘン（+4.5万席） 2.モスクワ（+3.3万席） 3.ウィーン（+2.7万席）

・減少（5空港）：▲7.1万席

◆減少数上位3空港

1.フランクフルト（▲5.7万席） 2.マドリード（▲0.6万席） 3.アムステルダム（▲0.6万席）

TC3
詳細

・増加（58空港）：+298.2万席

◆増加数上位3空港

1.バンコク（+41.6万席） 2.上海（+36.6万席） 3.台北（+26.4万席）

・減少（17空港）：▲163.9万席

◆減少数上位3空港

1.ソウル（▲99.3万席） 2.釜山（▲25.3万席） 3.大邱（▲21.4万席）

(2) 日本国内空港別

主要3空港（成田・羽田・関西空港）：2,074.5万席 / 対前年比106.8%
国内29空港（上記3空港除く）：666.1万席 / 対前年比102.7%

主要3空港

- ・**成田空港：955.9万席／対前年比109.1%（+79.7万席）**
 - ◆増加した就航先
1.上海（+15.5万席）2.バンコク（+13.1万席）3.北京（+4.9万席）ほか
 - ◆減少した就航先
1.デンパサール（▲5.8万席）2.香港（▲4.8万席）3.大邱（▲3.1万席）ほか
- ・**羽田空港：460.6万席／対前年比103.0%（+13.2万席）**
 - ◆増加した就航先
1.北京（+5.2万席）2.シンガポール（+4.3万席）3.ダナン（+3.5万席）
 - ◆減少した就航先
1.広州（▲6.2万席）2.香港（▲2.6万席）3.上海（▲0.3万席）
- ・**関西空港：658.0万席／対前年比106.3%（+39.2万席）**
 - ◆増加した就航先
1.上海（+10.3万席）2.天津（+8.2万席）3.杭州（+8.0万席）
 - ◆減少した就航先
1.ソウル（▲27.4万席）2.釜山（▲10.5万席）3.大邱（▲9.1万席）

増加（3地方）

- ・**中部地方（国際線就航5空港）**
：226.6万席／対前年比134.8%（+58.5万席）
 - ◆増加空港
1.中部（+51.0万席）2.静岡（+5.6万席）3.小松（+1.6万席）ほか
 - ◆減少空港 なし
- ・**東北地方（国際線就航3空港）**
：18.6万席／対前年比182.2%（+8.4万席）
 - ◆増加空港
1.仙台（+6.1万席）2.青森（+1.6万席）3.花巻（+0.7万席）ほか
 - ◆減少空港 なし
- ・**関東地方（国際線就航1空港）**
：4.0万席／対前年比166.7%（+1.6万席）
 - ◆増加空港
1.茨城（+1.6万席）

国内29空港 （上記3空港除く）

減少（3地方）

- ・**九州・沖縄地方（国際線就航11空港）**
：278.4万席／対前年比88.3%（▲37.0万席）
 - ◆増加空港
1.福岡（+2.4万席）2.下地島（+1.2万席）
 - ◆減少空港
1.沖縄（▲16.0万席）2.鹿児島（▲6.6万席）3.北九州（▲6.3万席）
4.熊本（▲5.0万席）5.大分（▲3.4）ほか
- ・**北海道地方（国際線就航3空港）**
：110.1万席／対前年比92.3%（▲9.2万席）
 - ◆増加空港 なし
 - ◆減少空港
1.千歳（▲9.2万席）
- ・**中国・四国地方（国際線就航6空港）**
：28.5万席／対前年比84.8%（▲5.1万席）
 - ◆増加空港
1.松山（+0.1万席）
 - ◆減少空港
1.米子（▲2.6万席）2.高松（▲1.4万席）3.広島（▲0.9万席）4.岡山（▲0.4万席）

(3) フルサービスキャリア (FSC) / ローコストキャリア (LCC) 別

FSC座席数 (77社) : 2,050.9万席 / 対前年比108.0%
LCC座席数 (30社) : 689.7万席 / 対前年比99.6%
2019年構成比率 : FSC : LCC = 74.8% : 25.2%
2018年構成比率 : FSC : LCC = 73.3% : 26.7%

LCC座席数上位4路線の詳細は以下の通り。

・ソウル線LCC座席数(6社) : 144.6万席 / 前年比68.3% (▲67.1万席)

◆増加空港

1.名古屋 (+2.9万席) 2.成田 (+2.5万席)

◆増加航空会社 なし

・台北線LCC座席数(8社) : 95.4万席 / 前年比109.6% (+8.4万席)

◆増加空港

1.関西 (+6.3万席) 2.名古屋 (+2.0万席) 3.札幌 (+1.6万席) 4.仙台 (+1.2万席)

◆増加航空会社

1.ピーチ (+19.9万席) 2.エアアジアX (+3.3万席) 3.タイガーエア台湾 (+3.2万席) ほか

・バンコク線LCC座席数(6社) : 90.5万席 / 前年比182.3% (+40.9万席)

◆増加空港

1.成田 (+15.5万席) 2.名古屋 (+8.2万席) 3.札幌 (+7.0万席) 4.福岡 (+6.6万席)
ほか

◆増加航空会社

1.タイエアアジアX (+18.2万席) 2.タイライオンエア (+14.1万席) 3.ノックアウト (+10.0万席)
4.ノックエア (+0.8万席)

・香港線LCC座席数(4社) : 76.3万席 / 前年比104.5% (+3.3万席)

◆増加空港

1.沖縄 (+6.3万席) 2.下地島 (+1.2万席) 3.長崎 (+1.2万席) ほか

◆増加航空会社

1.香港エクスプレス (+6.0万席) 2.ピーチ (+3.4万席)

LCC
詳細